

宙を拓くタスクフォース(第3回)
議事要旨

1. 日時 平成 30 年 12 月 14 日(金)10:00~12:00
2. 場所 総務省7階 省議室
3. 出席者
 - (1) 構成員
中須賀主査、荒井構成員、石川構成員、小笠原構成員、蔵本氏(岡島構成員の代理)、
押田構成員、片岡構成員、河合構成員、黒田構成員、佐藤構成員、志佐構成員、
矢野構成員、渡辺構成員
 - (2) ゲストプレゼンター
株式会社 KDDI 総合研究所
 - (3) オブザーバ
内閣府宇宙開発戦略推進事務局、
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課、
経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室、
株式会社 NTT データ経営研究所
 - (4) 総務省
吉田国際戦略局長、泉大臣官房審議官、藤野総務課長、
坂中技術政策課長、村上宇宙通信政策課長、中谷衛星開発推進官

4. 議事要旨

KDDI 株式会社、株式会社東京放送ホールディングス、株式会社 IHI 及び株式会社 NTT データ経営研究所から資料に基づいて説明が行われた。構成員からの主な意見は以下のとおり。

【KDDI 株式会社のプレゼンテーションについて】

○衛星通信を5Gのバックホールとする場合、コネクティビティーを十分に維持することができるのかといった問題があるが、現在はアンテナや追尾性能の技術革新が進んでいる

ため、十分対応できると考えられる。

- 静止軌道の通信では遅延の問題が考えられるが、TCP アクセラレータの技術を使うことによって、かなりの部分まで改善できると考える。一方で、オンラインのゲーム等、レスポンスが必要とされるものに対してはデメリットがあると思う。
- IoT や M2M の通信では、送信頻度やインターバルについてそれほど要求されないため、衛星を使うメリットは非常に多く、適材適所での使い分けができれば良いと考える。
- Google Lunar X Prize のようなコンテストは、技術革新のきっかけづくりに非常に良い影響を与えていると思う。そのため、関連する国内外のコンテストを事務局で調査し、報告いただきたい。それらをベースに、日本での今後の対応について議論したい。

【株式会社東京放送ホールディングスのプレゼンテーションについて】

- 宇宙をもっと知ってもらう意味では、PR の仕方を工夫する必要がある。民間企業だけでなく省庁も含め、どのようにアプローチしていけばよいかを議論できるような機会があると良い。
- 宇宙開発について、日本のスポンサーだけでなくグローバルなスポンサー相手に繰り広げられると、より良い成果が生まれると思う。
- 既存の技術力を生かす上で、普通の宇宙のプレイヤーだけでなく、異業種企業を巻き込んでいくことで新しいビジネスモデルをつくれる可能性があると思う。
- オープンイノベーションには、established space の人たちが入ってきてても良いと思う。彼らは経験豊富で技術も持っており、様々なビジネスもやっているため、一員として参加することでより良いシステムができるものと考ええる。
- 4K・8K 放送については、放送事業者の責務として、今後も取り組んで行くこととしたい。

【株式会社 IHI のプレゼンテーションについて】

- OSSA(宇宙状況把握)に関し、これから低軌道衛星のコンスレーションが進むことで、まさに軌道上の事案が発生することが懸念される。そのため、より具体的な情報が早い段階で手に入ると良い。
- ロジスティクスや物を運ぶことが主とすると、何を運ぶか、どういう世界を将来つくっていくかといったことを考える企業や組織と組むことが重要と考える。

【株式会社 NTT データ経営研究所】

- 大型の静止衛星は調達のリスクやコストが高いほか、15年間ほど使用し続けなければならないため、地上の技術を反映させることが困難である。一方で、低軌道の小型衛星は地上の技術に合わせて交換できるがメリットである。そのため、柔軟に衛星通信の体制を変えられる小型衛星を静止軌道に持ち込むという話は、大いにあり得ると思う。
- 衛星のオペレーターにとっては基本的に稼働率を一番上げたいと考えており、軌道上でもビームの照射位置を変えることでなるべく稼働率を上げるオペレーションをしたい、というニーズも出てきている。

事務局から資料に基づいて「宙を拓くタスクフォース」の想定スケジュールの説明が行われた。次回会合は、1月28日(月)を予定。

以上